

医療ソーシャルワーカーの人材育成システムにおけるスーパービジョン実践の効果

河野聖夫¹⁾、星龍実²⁾、押見将孝²⁾、佐藤はるみ³⁾

- 1) 新潟医療福祉大学 社会福祉学科
- 2) 新潟市民病院 患者総合支援センタースワンプラザ
- 3) 居宅介護支援事業所たきべ野 管理者

【背景・目的】新潟市民病院における医療ソーシャルワーカーへの人材育成システムは、組織内教育のプログラム開発を指向するものであり、医療ソーシャルワーカーの実務的な人材育成を図るとともに、その指導者（スーパーバイザー）の育成を同時に目指すものとなっていて、先駆的な取り組みである。また、医療ソーシャルワーカーに対する組織内教育や業務・実践力向上を継続的に図るための体系化においても、ピラミッド型とマトリックス型を複合化した育成システムの導入や、指導と達成段階のラダーを具体化しようとしている点において新たな思考や要素を含んでいる。

一方で、この人材育成システムにおける教育プログラムの構築にあたっては、①OGSV モデルとして実践されている対人援助スーパービジョンの枠組みを活用したラダー開発が進められるとともに、②指導方法（外部指導者の招聘による訓練を含む）においても同モデルの導入を図っており、教育プログラムの構成は全国的にも例のない試行的な取り組みである。

本研究では、同病院において進められている人材育成システムにおいて、核となる二つの要素、すなわち開発されたラダーと導入された OGSV モデルによるスーパービジョン実践が、相互にどう機能したのか、その影響と効果の検証を目的としている。

【方法】影響と効果の検証は、第一段階として、指導対象者（医療ソーシャルワーカー 6名）各自が作成・提出する実践内容の報告書、ラダーにしたがって作成されるステップアップシートとステップアップ目標支援シートを基に、単一事例実験計画法を用いて変化の過程を評価した。

（第36回日本医療社会事業学会で報告）・・・基礎評価

本研究における検証は、教育プログラムに参画する立場から行った個別インタビューの内容（面接記録のデータ）を院内教育講師（本発表者）と組織内指導者（共同研究者）が KJ 法を用いて共同で類型化を行うとともに、ラダー項目との整合性の観点から評価した。同意の下、すべての被験者に対して、同一人（4名）が評価を行っている。

個別インタビューは、調査期間である平成25年6月から平成27年3月の間において、基礎評価の資料となる各シートの提出後および基礎評価期間終了前の計5回（年2回＋最終の1回）に実施し、ICレコーダーによって記録した。また、KJ法による内容の分析作業は、基礎評価完了後の平成27年9月～12月に行った。その後、基礎評価と

本評価における結果の比較分析を実施した。

なお、本研究は、新潟医療福祉大学倫理委員会および新潟市民病院倫理委員会の承認を得ている。

【結果】被験者6名が個別インタビューを通じて述べた内容のカテゴリーは、全体では最小4、最大8に分類された。（最終の集約段階前で一旦は細分化されていたカテゴリーでみた場合は、最大10、最小4となる。）

初回と2回目の比較では、6名全員でカテゴリー数が減少、2回目と3回目では増加した。3回目と4回目は3名が増加し3名が減少、4回目と5回目でも3名の増加し3名が減少となった。初回と5回目の比較では、増加3名、横ばい2名、減少1である。

共通性・継続性においては、それぞれにおいて5回を通じて継続されるカテゴリー（内容）が6名全員に認められる。また、初回は「仕事の姿勢・態度」に関する内容が6名に共通して認められ、5回目では「課題・自己課題」という内容のカテゴリーが共通して認められる。

【考察】カテゴリーの変化は、関心（問題意識）の集約化と内容の具体化の影響を受けていると考えられる。

2年間の経過の中で、教育プログラムの開始当初である初回では、被験者自らの意欲や問題意識によって発言の内容が構成されている。一方で、回を追うごとにラダーの内容や自己評価、指導者からの評価や指導内容に呼応するような発言が増加している。

初回から2回目では、中間評価時期であることから意識の焦点化が進行し、話題のカテゴリーが減少したものと考えられる。また、3回目は年度末の期末評価の時期であることが反映して、総括的にカテゴリーが増加に転じたものとみられる。一方、プログラムの二年目となる4回目・5回目で増減の2極化は、ラダーによる被験者各自の自己評価によって具体化された認識状況が反映された結果であると推測される。

【結論】これらの結果から、ラダーの枠組みに対応したスーパービジョン実践が、ラダーの項目を意識化させる効果に結びついているとともに、項目内容の理解やその達成に必要な自己課題の具体化において影響していると判断される。

【文献】

- 1) 奥川幸子：身体知と言語，中央法規，2007.
- 2) 河野聖夫：社会福祉施設におけるスーパービジョンの定着化—導入方法と環境的な課題の検討—，健康科学大学紀要，2：127-142，2006.
- 3) Davys A / Beddoe L：Best Practice in PROFESSIONAL SUPERVISION Jessica Kingsley Publishers London and Philadelphia, 2010.